第Ⅳ部門　　都市の歴史的変遷と祭礼空間

大阪工業大学工学部　学生会員　○渡辺秀斗
大阪工業大学工学部　池田健人
大阪工業大学工学部　正 会 員　吉川　眞
大阪工業大学工学部　正 会 員　田中一成

１．はじめに

祭礼空間は古くから地域住民の手によって担われ，人々の生活との関わりを持ちながら，日々地域住民の手入れによって現代に至っている．近年，伝統的な祭礼行事が町おこしや村おこしとして見直されており，神社や寺院などの祭礼空間が再び多くの人々に活用されている．

柳田國男によって見出された時間論をともなう日本人の伝統的な世界観のひとつとして「ハレとケ」がある．「ハレ」は儀式や祭り，年中行事などの非日常を表し，「ケ」は普段の生活である日常を表している．祭礼空間ではハレの日になると数多くの人々が訪れ，祭礼行事に触れる機会がある．例えば，だんじり祭りが挙げられる．だんじり祭りでは境内だけでの祭礼ではなく，普段私たちが利用している道路なども利用される．町内曳行でだんじりが通る道路も祭礼空間の一部となる．地域の人々は，だんじり祭りを通して祭礼空間を身近に感じ，地域への親しみと帰属意識を感じることになる．だんじり祭りを観光資源とすることにより，衰退する都市に活気を取り戻すという経済効果も期待できる．

２．研究の目的と方法

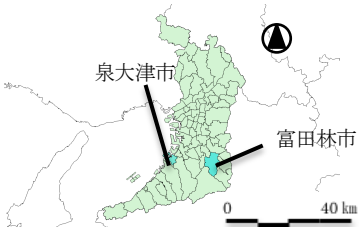
本研究では地域的で文化的な要素の中でも「祭礼」を取り上げている．とくに祭礼が展開される空間，すなわち「祭礼空間」に着目し，都市の歴史的な変遷の中で，どのような変化を受けてきたかを把握することにする．

研究に取り組むにあたって重要なことは，それぞれの地域固有の建造物や祭礼行事などを，現代に残された祭礼空間や史料から読み取り，GIS（Geographic Information System）や CAD/CG に代表される空間情報技術を用いて２次元や３次元で示していくことである．GIS とは地理的位置を手がかりに，位置に関する情報を持ったデータを総合的に管理・加工し，視覚的に表示し，高度な分析や迅速な判断を可能にする技術である．GIS を用いることにより，地図上に神社仏閣の位置や氏子地域などを示し，祭礼空間が氏子地域内でどのような関係性を持っているかを視覚的に把握することが可能である．

３．対象地の選定

全国での祭礼を把握する中で，長い歴史をもつだんじり祭りが行われている関西での祭礼に着目した．その中でも大阪府はだんじり祭りが栄えている地域が多い．本研究ではだんじり祭りが行われている富田林市と泉大津市を対象地に選定している（図 －１）．

富田林市では，６社でだんじり祭りが行われている．また，重要伝統的建造物群保存地区に選定されている寺内町がある事でも有名であり，歴史的な視点でみていくにはふさわしい対象地であると考える．一方，泉大津市では，４社でだんじり祭りが行われている．泉大津市には「飯の山だんじり」というだんじり祭りの起源と考えられている祭りがあることで知られている．



図－１　対象地

Hideto WATANABE, Kento IKEDA, Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA
watanabehideto0@gmail.com

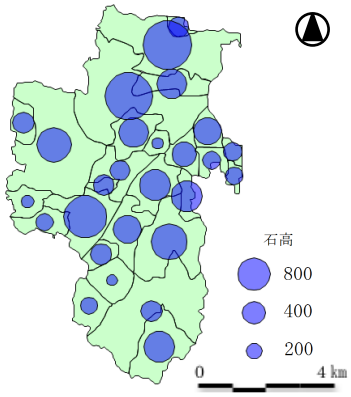
４．分析・把握

市史，記念誌などの史料をもとに各対象地の神社仏閣の分布，祭礼空間の把握などを行った．

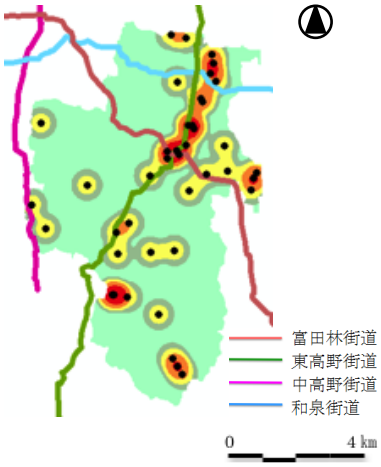
GIS を利用し幾何補正を行い，近世における村落配置図を示すとともに，旧村落ごとに石高などの属性データを付加した．石高は可変サイズシンボルで示し，村落勢力の把握を行った（図 -２）．結果，富田林市では喜志，新堂，錦郡の３村が 1000 石を超えており，当時の富田林の中心地であったことを把握した．泉大津市では一橋徳川家が勢力を伸ばしていたことを把握した．次に現存している神社・寺院の位置の把握を行い，どのような傾向にあるのかを考察した．富田林市における神社に関しては，市の西側に神社が存在していない理由として，近年新たに開発された住宅地があることから，昔の神社がなくなってしまったという理由が考えられる．一方，寺院に関しては，市全体に寺院が分布しているという傾向とその中でも寺内町周辺に寺院が集中していることを見出せた．泉大津市には神社が４社しかなく，神社に関する特徴が見出せなかった．しかし，寺院に関しては寺内町周辺に寺院が集中しているという結果から，富田林市との共通点を見出すことができた．だんじり祭り関して，富田林市では６社で行われており，28 町が参加している．泉大津市では４社で行われており，20 町が参加していることから，富田林市より神社・町とも少ないことがわかる．

次に富田林市において，近世と現代での寺院数の増減をみることにより，どのような変遷をたどってきたのかを把握した．結果，多くの地域では減少傾向であった．しかし，都市化が進んでおらず寺院数に増減が見られない地域もあったことから，すべての地域が減少傾向ではないということを把握した．また，寺院がどの位置に集中しているかを把握するためにカーネル密度推定を行った（図 -３）．結果，寺内町周辺に寺院が集中していることを把握した．さらに，この結果と街道の関係性を考察したところ，東高野街道沿いに寺院が集中していることが把握できた．泉大津市においては，ハレとケによる祭礼空間の違いを明確にし，広がり方を把握した（図 -４）．また，曳行コースを２次元・３次元の両方でモデリングすることにより，祭礼空間を２つの視点から理解し，氏社・氏子の関係を明確に示すことができた（図 -５）．

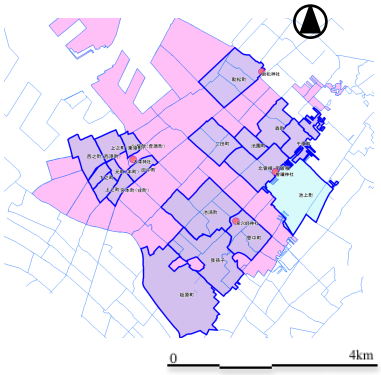
両対象地とも，各市の市史から過去の情報を得た．そこから得られたデータと現代におけるデータを比較することにより，それぞれの対象地の変遷を把握することができた．



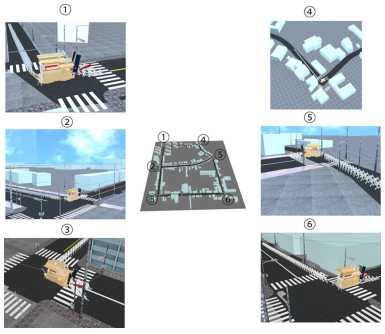
図－２　村落配置図と石高



図－３　カーネル密度推定



図－４　ハレ時における祭礼空間



図－５　３次元モデリング

５．おわりに

本研究では，空間情報システムを利用することで，歴史的変遷における都市の移り変わりや近世と現代での様々な比較を行った．結果，寺院の総数の増減や都市の中での祭礼空間と寺内町・街道との関係性を把握した．

今後の課題として，本研究では，主に狭域な場所での分析となったため，対象範囲を広げ，全国での祭礼に着目していく．また，本研究において，祭礼空間と街道に関係性があることを把握したので，街道だけでなく道路と祭礼空間の関係性についても着目していく．